



平成27年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成26年11月12日

上場会社名 株式会社アスモ 上場取引所 東
 コード番号 2654 URL http://www.asmo1.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長井 尊
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画室室長 (氏名) 岡田 秀樹 TEL 03-6911-0550
 四半期報告書提出予定日 平成26年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第2四半期の連結業績（平成26年4月1日～平成26年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第2四半期	8,373	21.2	505	△52.4	511	△51.3	236	△71.7
26年3月期第2四半期	6,909	54.0	1,062	182.7	1,050	187.7	836	174.0

(注) 包括利益 27年3月期第2四半期 306百万円 (△65.2%) 26年3月期第2四半期 880百万円 (181.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第2四半期	1.69	—
26年3月期第2四半期	5.97	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期第2四半期	4,931	3,384	66.2	23.28
26年3月期	4,907	3,052	59.9	20.97

(参考) 自己資本 27年3月期第2四半期 3,263百万円 26年3月期 2,940百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成27年3月期の連結業績予想（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,976	8.9	951	△49.9	1,022	△46.6	868	△0.0	6.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料P.5「2. サマリー情報(注記事項)に関する情報(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	27年3月期2Q	151,451,750株	26年3月期	151,451,750株
② 期末自己株式数	27年3月期2Q	11,243,247株	26年3月期	11,242,961株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	27年3月期2Q	140,208,710株	26年3月期2Q	140,209,149株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了しておりません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想の利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済・金融政策の効果を背景とした企業収益・雇用環境の改善や株価上昇が消費を刺激する効果もあり、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、消費税率引き上げ等による実質可処分所得の減少や夏場の天候不順による影響もあり、個人消費の回復は鈍く、依然として予断を許さない状況となっております。

このような状況の下、当社グループは、平成26年7月にOX (H.K.) COMPANY LIMITEDをASMO CATERING (HK) CO., LIMITEDと社名を変更し、アスモグループとして更なる一体感を醸成することを図りました。また、ASMO CATERING (HK) CO., LIMITEDの子会社であるASMO CATERING TAIWAN COMPANY LIMITEDの台北一号店「日本料理 今助」が当四半期において海外の新たな地域における事業の展開と収益の増加に寄与しております。

また、国内においては連結子会社である株式会社アスモ介護サービスにおいて、更なる介護事業の拡大を図るため、有料老人ホームの運営を行うことといたしました。そこで、事業リスクの軽減、運営ノウハウ等の教授・取得・蓄積を目的として、株式会社ベストライフのベストフランチャイズシステムを採用し、株式会社アスモ介護サービスと株式会社ベストライフとの間でフランチャイズ契約を締結いたしました。なお、平成26年10月に当該フランチャイズ契約に基づく第1号施設を千葉県千葉市若葉区に開設予定で、当第2四半期にその関連費用を計上しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高8,373百万円（前年同四半期比 21.2%増）、営業利益505百万円（前年同四半期比 52.4%減）、経常利益511百万円（前年同四半期比 51.3%減）となり、当第2四半期連結累計期間における四半期純利益は、236百万円（前年同四半期比 71.7%減）となりました。

主なセグメントごとの業績は次のとおりであります。

セグメント名称 (セグメントに該当する会社)	主要な事業の内容	
アスモ事業 (株式会社アスモ)	グループ会社の統制・管理、不動産賃貸	
アスモトレーディング事業 (株式会社アスモトレーディング)	食肉の輸出入、食肉及び食肉加工品の販売	
アスモフードサービス事業 (株式会社アスモフードサービス)	高齢者介護施設等における給食の提供	
アスモ介護サービス事業 (株式会社アスモ介護サービス)	訪問介護事業所の運営	
ASMO CATERING (HK) 事業 (注) (ASMO CATERING (HK) CO., LIMITED)	香港における外食店舗の運営	
そ の 他	(サーバントラスト信託株式会社)	信託商品の販売
	(アスモ少額短期保険株式会社)	保険商品の販売
	(ASMO CATERING (TAIWAN) COMPANY LIMITED)	台湾における外食店舗の運営

(注) ASMO CATERING (HK) 事業は平成26年7月にOX(H.K.)COMPANY LIMITEDをASMO CATERING (HK) CO., LIMITEDに社名変更したことに伴い、OX(H.K.)事業より名称を変更しております。

① アスモトレーディング事業

アスモトレーディング事業におきましては、日本国内、アメリカ、カナダ及びメキシコにおいて発生している豚流行性下痢（PED）の影響により世界規模で豚肉の価格が上昇し続け、第1四半期には品薄となっている商材を確保していたことから、豚肉の販売量及び販売価格に好影響をもたらし、増収増益に寄与いたしました。第2四半期においては、引き続き豚肉商材の品薄が予測されておりましたが、急激な価格上昇により需要が落ち込み、販売価格の引き下げを余儀なくされる状況となりました。この販売価格の引き下げにより、第1四半期と比較すると利益面が低位に推移いたしました。一方で、牛肉においては、世界的な需要の増加及び干ばつの影響で飼料価格が高騰し、生体牛のと畜が加速いたしました。この結果、対前年比で牛の流通頭数が減少したことから海外の牛肉製品の価格が上昇し、米国、オーストラリア及び他国においても牛肉の需要が高まっている傾向にあります。その中で、当社は先駆者としての強みを活かすと同時に「日・メキシコ経済連携協定に基づく関税割当制度」を利用することで価格メリットのあるメキシコ産牛肉を取り扱い、第2四半期には新ブランドの販売も始め、既存のお客様にも従前以上に満足いただける品質及び価格にて提供しております。今後、他の国の商品においても国ごとの特徴を活かしながら、お客様の商品ニーズに応えられるよう、安定購買を図るとともに販路拡大にも努めてまいります。

また、国産商材についても第1四半期より継続して取扱量の増加に注力し、原料での購買及び販売を行いながら、さらに通信販売用の商品として一般顧客向けに加工して使用することで、効率的な購買及び販売が出来る体制を構築しております。

費用面では、日本も例外ではなく世界の状況と同じように飼料価格の影響、原油高によるコストの負担、さらに円安の影響もありましたが、販売価格に転嫁させるべくお客様に対して説明及び交渉を行い、販売及び利益の拡大を図りました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、1,448百万円（前年同四半期比 44.0%増）、セグメント利益（営業利益）は、9百万円（前年同四半期比 744.8%増）となりました。

② アスモフードサービス事業

アスモフードサービス事業におきましては、研修、講習会（新卒研修会や洋菓子講習会、料理コンテスト等）を積極的に行い、従業員個々の知識・技術を高め、お客様の様々なニーズに対応出来る人材育成を行っております。さらに海外における給食事業の取り組みに向けて、連結子会社のASMO CATERING (HK) CO., LIMITEDにて研修を行っているスタッフも増加しております。

今後とも様々なお客様のニーズにあったお食事が提供できるように心がけ、よりお客様にご満足いただけるように努めてまいります。

当第2四半期連結会計期間末時点における受託施設数（労務委託等の部分委託を含む）は、275施設（前年同四半期末時点は265施設）となっております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、3,496百万円（前年同四半期比 7.0%増）、セグメント利益（営業利益）は、5百万円（前年同四半期比 94.0%減）となりました。

③ アスモ介護サービス事業

アスモ介護サービス事業におきましては、前期に訪問介護事業所の積極的な開設を推し進め、44事業所を設置するに至りました。当第2四半期においては、サービスの質の向上に注力しご契約者の増加・獲得を図りました。その結果、当第2四半期連結会計期間末時点におけるご契約者数は1,545名（前年同四半期末時点は、31事業所の1,332名）となりました。

今後におきましては、既存事業所におけるサービスの質の向上の追求と新規事業所の開設でご契約者数を増加を図ることに加え、平成26年10月よりは、フランチャイズ契約に基づく有料老人ホームの運営で、シニアマーケットへの関わりをより広く深め、企業価値の向上を図ってまいります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、2,072百万円（前年同四半期比 19.6%増）、セグメント利益（営業利益）は、417百万円（前年同四半期比 42.9%減）となりました。

④ ASMO CATERING (HK) 事業

ASMO CATERING (HK) 事業におきましては、平成26年7月に社名も新たに、OX(H.K.) COMPANY LIMITEDよりASMO CATERING (HK) CO., LIMITEDへ会社名を変更いたしました。香港における事業は、レストラン店舗数においては第1四半期と同じく16店舗を展開しています。また、9月には、現地で香港政府に対する学生デモが勃発し、香港経済に影響を与えましたが、店舗の運営に大きな影響はなく、売上は堅調に推移いたしました。その一方で、費用面において人件費の増加が主な圧迫要因となり、前年同期比と比較して営業利益の増加には至りませんでした。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、996百万円（前年同四半期比 13.9%増）、セグメント利益（営業利益）は、13百万円（前年同四半期比 76.4%減）となりました。

⑤ その他の事業

その他の事業におきましては、信託事業では、既存商品の「不動産証券化信託」や「エスクロー信託」、新規商品の「老い支度サポート信託」や「葬儀費用安心お預かりサービス信託」などの販売に努めましたが、未だ営業利益を計上するに至っておりません。引き続き、積極的な営業活動を行い、新規顧客開拓に注力し利益体質への転換を図ってまいります。少額短期保険事業では、現在において営業利益を計上しておりますが、今後、グループが得意とする「シニアマーケット」に適した保険を開発・販売することにより、更なる販路・規模の拡大を図ってまいります。飲食事業についてはASMO CATERING TAIWAN COMPANY LIMITEDが平成26年4月15日にオープンした「日本料理 今助」の台北一号店は当第2四半期において一段と売上も伸ばし、会社全体でも早くも利益を確保することができました。以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、356百万円（前年同四半期比1,304.1%増）、セグメント損失（営業損失）は、8百万円（前年同期23百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は4,931百万円となり、前連結会計年度末に比べ24百万円増加いたしました。これは主に受取手形及び売掛金が89百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は1,546百万円となり、前連結会計年度末に比べ308百万円減少いたしました。これは主にその他流動負債が215百万円、未払法人税等が96百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は3,384百万円となり、前連結会計年度末に比べ332百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が263百万円、為替換算調整勘定が25百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は66.2%（前連結会計年度末は59.9%）となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、1,489百万円となり、前連結会計年度末より19百万円減少いたしました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、91百万円（前年同四半期は825百万円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益353百万円、及び法人税等の支払額207百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、118百万円（前年同四半期は228百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出159百万円、建設協力金の支払による支出100百万円、及び有形固定資産の売却による収入172百万円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、4百万円（前年同四半期は409百万円の支出）となりました。これは、長期借入金の返済2百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成26年5月14日「平成26年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から、退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法に変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、第1四半期連結会計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首の退職給付に係る負債が27,089千円減少し、利益剰余金が27,089千円増加しております。また、この変更による当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,509,186	1,489,890
受取手形及び売掛金	1,611,441	1,700,820
商品	310,366	349,631
貯蔵品	14,075	12,557
その他	482,675	491,117
貸倒引当金	△3,867	△2,392
流動資産合計	3,923,877	4,041,624
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	621,469	404,155
有形固定資産合計	621,469	404,155
無形固定資産		
のれん	94,349	84,418
その他	6,597	5,658
無形固定資産合計	100,947	90,076
投資その他の資産		
その他	577,607	710,258
貸倒引当金	△316,887	△314,907
投資その他の資産合計	260,720	395,351
固定資産合計	983,137	889,583
資産合計	4,907,015	4,931,208
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	458,269	506,709
未払金	573,435	533,651
未払法人税等	96,059	—
賞与引当金	137,003	162,036
返品調整引当金	6,792	—
その他	462,370	246,922
流動負債合計	1,733,931	1,449,319
固定負債		
長期借入金	4,261	1,477
退職給付に係る負債	108,152	88,591
その他	8,326	7,138
固定負債合計	120,740	97,207
負債合計	1,854,672	1,546,527

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,323,272	2,323,272
利益剰余金	641,874	905,551
自己株式	△42,350	△42,382
株主資本合計	2,922,796	3,186,442
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	86,158	111,349
繰延ヘッジ損益	196	55
退職給付に係る調整累計額	△68,844	△34,422
その他の包括利益累計額合計	17,511	76,982
少数株主持分	112,035	121,256
純資産合計	3,052,343	3,384,681
負債純資産合計	4,907,015	4,931,208

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	6,909,257	8,373,844
売上原価	4,654,277	6,118,818
売上総利益	2,254,979	2,255,025
返品調整引当金戻入額	8,051	6,792
返品調整引当金繰入額	6,279	—
差引売上総利益	2,256,751	2,261,818
販売費及び一般管理費	1,193,794	1,756,346
営業利益	1,062,956	505,471
営業外収益		
受取利息	62	473
為替差益	6,292	5,521
償却債権取立益	3,622	—
その他	913	4,609
営業外収益合計	10,890	10,603
営業外費用		
支払利息	3,411	179
貸倒引当金繰入額	19,576	—
その他	792	4,051
営業外費用合計	23,781	4,231
経常利益	1,050,065	511,843
特別損失		
賃貸借契約解約損	2,453	—
減損損失	—	158,339
その他	36	181
特別損失合計	2,490	158,521
税金等調整前四半期純利益	1,047,575	353,322
法人税、住民税及び事業税	228,111	59,698
法人税等調整額	△45,714	53,897
法人税等合計	182,397	113,596
少数株主損益調整前四半期純利益	865,177	239,726
少数株主利益	28,416	3,138
四半期純利益	836,761	236,588

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	865,177	239,726
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	—	△141
為替換算調整勘定	14,992	32,090
退職給付に係る調整額	—	34,422
その他の包括利益合計	14,992	66,371
四半期包括利益	880,170	306,098
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	844,407	296,060
少数株主に係る四半期包括利益	35,762	10,037

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,047,575	353,322
減価償却費	43,104	66,917
のれん償却額	35,222	10,164
減損損失	—	158,339
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△1,772	△6,792
貸倒引当金の増減額(△は減少)	5,967	△3,454
退職給付引当金の増減額(△は減少)	2,751	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	41,950
賞与引当金の増減額(△は減少)	56,836	23,833
受取利息及び受取配当金	△62	△473
支払利息	3,411	179
為替差損益(△は益)	△5,935	△34
有形固定資産除却損	0	181
売上債権の増減額(△は増加)	△153,454	△84,732
その他の資産の増減額(△は増加)	△10,133	△50,517
たな卸資産の増減額(△は増加)	18,654	△34,743
仕入債務の増減額(△は減少)	1,685	46,326
その他の負債の増減額(△は減少)	17,072	△143,121
未払消費税等の増減額(△は減少)	37,739	△82,824
その他	—	△1,100
小計	1,098,664	293,420
利息及び配当金の受取額	55	79
利息の支払額	△72,542	△179
法人税等の支払額	△200,916	△207,378
法人税等の還付額	—	5,575
営業活動によるキャッシュ・フロー	825,260	91,517
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△95,593	△159,625
有形固定資産の売却による収入	—	172,878
無形固定資産の取得による支出	△1,730	—
出資金の回収による収入	1	—
差入保証金の差入による支出	△12,416	△32,338
差入保証金の回収による収入	265	1,101
関係会社株式の取得による支出	—	△1,050
貸付けによる支出	△120,000	△200
貸付金の回収による収入	515	759
建設協力金の支払による支出	—	△100,000
建設協力金の回収による収入	—	333
投資活動によるキャッシュ・フロー	△228,957	△118,140
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△406,208	—
長期借入金の返済による支出	△2,533	△2,777
リース債務の返済による支出	△1,230	△1,282
自己株式の取得による支出	—	△32
財務活動によるキャッシュ・フロー	△409,972	△4,091
現金及び現金同等物に係る換算差額	11,449	11,418
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	197,779	△19,295
現金及び現金同等物の期首残高	674,004	1,509,186
現金及び現金同等物の四半期末残高	871,784	1,489,890

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注1)
	アスモ 事業	アスモレ ーディング 事業	アスモフ ードサービ ス事業	アスモ介 護サービ ス事業	ASMO CATERING (HK)事業 (注2)	計	
売上高							
外部顧客への売上高	4,580	1,005,861	3,266,935	1,731,983	874,498	6,883,858	25,398
セグメント間の内部 売上高又は振替高	399,826	13,026	7,273	—	—	420,125	—
計	404,406	1,018,888	3,274,208	1,731,983	874,498	7,303,984	25,398
セグメント利益又は損 失(△)	245,688	1,115	93,673	730,295	57,207	1,127,980	△23,223

	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高			
外部顧客への売上高	6,909,257	—	6,909,257
セグメント間の内部 売上高又は振替高	420,125	△420,125	—
計	7,329,382	△420,125	6,909,257
セグメント利益又は損 失(△)	1,104,756	△41,800	1,062,956

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであります。

(注2) ASMO CATERING (HK) 事業は平成26年7月にOX(H.K.)COMPANY LIMITEDをASMO CATERING (HK) CO., LIMITEDに社名変更したことに伴い、OX(H.K.)事業より名称を変更しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,127,980
「その他」の区分の利益又は損失(△)	△23,223
セグメント間取引消去	△41,800
四半期連結損益計算書の営業利益	1,062,956

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						その他 (注1)
	アスモ 事業	アスモトレ ーディング 事業	アスモフ ードサービ ス事業	アスモ介 護サービ ス事業	ASMO CATERING (HK)事業 (注2)	計	
売上高							
外部顧客への売上高	3,706	1,448,577	3,496,335	2,072,189	996,401	8,017,210	356,633
セグメント間の内部 売上高又は振替高	238,990	26,795	11,786	—	—	277,572	—
計	242,696	1,475,373	3,508,121	2,072,189	996,401	8,294,782	356,633
セグメント利益又は損 失(△)	52,314	9,422	5,640	417,270	13,472	498,120	△8,480

	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高			
外部顧客への売上高	8,373,844	—	8,373,844
セグメント間の内部 売上高又は振替高	277,572	△277,572	—
計	8,651,416	△277,572	8,373,844
セグメント利益又は損 失(△)	489,639	15,831	505,471

(注1) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであります。

(注2) ASMO CATERING (HK) 事業は平成26年7月にOX(H.K.)COMPANY LIMITEDをASMO CATERING (HK) CO., LIMITEDに社名変更したことに伴い、OX(H.K.)事業より名称を変更しております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	498,120
「その他」の区分の利益又は損失(△)	△8,480
セグメント間取引消去	13,200
表示組替による調整額	2,631
四半期連結損益計算書の営業利益	505,471

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。